

2021 岡山スカウトキャンポリー
変更・追加・確認 事項 7月25日版

■プログラム関係

1. 開会式・閉会式

- ・場 所：(いずれも) B 地区キャンプファイヤー場
- ・開会式：19時から開始できるよう入場してください。
- ・閉会式：10時から開始できるよう入場してください。
- ・制服着用でご参加ください

2. プログラムについて

集合場所

- ・通信：B 地区キャンプファイヤー場南側の池の辺り。モールス用の旗が目印。
- ・ワイルドに料理だぜえ！！：マス養魚場入口(キャンプ場内では集合しません)
- ・バンブー大作戦：B 地区キャンプファイヤー場北側
- ・結索トレイル：受付(B 地区キャンプファイヤー場南側の池の横)
- ・聖地巡礼：受付(B 地区キャンプファイヤー場南側の池の横)
- ・火起こし：B 地区キャンプファイヤー場
- ・蒜山焼きそばを作ろう：B 地区炊事場(B 地区キャンプファイヤー場の北東)
- ・クラフト：ガールスカウトの本部テント

持ち物(追加)

- ・バンブー大作戦：包丁をお持ちください。実際に研ぎます。
- ・クラフト：スイトンを作ります。材料費300円が必要です。

その他

- ・指導者もできるだけ同行してください。
- ・ネッカチーフを着用してください。

3. カブ上進章集会(合同)

7月28日16時から17時までC、D地区のキャンプファイヤー場で行います。
ロープと上進章ハンドブックを持参してください。

4. 宗教儀礼

実施場所

- ・仏教：B 地区キャンプファイヤー場
- ・キリスト教：B 地区キャンプファイヤー場北側(「バイブルキャンプ」から変更)
- ・金光教：A 地区キャンプファイヤー場北側
- ・世界救世教：本部テント付近
- ・神道：実施いたしません。

■その他

1. 安全について

別紙安全について及び、日本連盟コミッショナーからの「夏季の諸活動に向けて」の呼びかけを熟読ください。

2. 大会中止の場合のホームページ掲載について

当日朝の掲載ができない可能性がありますので、中止の場合は各団の緊急連絡先に直接連絡もいたします。

安全について

2012岡山スカウトキャンプリー

1. 期間中スカウトの前での喫煙はしないようにしてください。
また、飲酒はしないでください。
2. スカウトの刃物の使用については、十分指導してください。
3. 熱中症や食中毒につまましては、予防に十分な対策をお願いします
4. 虫刺されにつまましては、日没時と早朝にやぶ蚊がひどく、さされたら腫れる
恐れがあります。長そで、長ズボンなどでの予防をお願いします
5. まむし等につままして、草むらや川べりは特に気を付けてください
6. 野営場への往復時に交通安全には、注意してください。交通マナーを順守して
ください。
7. その他、教育本部コミッショナーからの夏季行事への注意事項やを熟読ください。
8. 期間中に怪我、事故、体長不良など急を要すると判断された場合には、救急車を
依頼するとともに、本部へも必ず連絡ください。

[地域の救急病院]

湯原温泉病院（内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科他）

岡山県真庭市下湯原56 Tel0867-62-2221

勝山病院（内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・外科・整形外科・眼科他）

岡山県真庭市本郷1819 Tel 0867-44-3161

（以下、気象庁ホームページより抜粋）

・雷から身を守るには

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、落雷が差し迫っています。以下のことを念頭に速やかに安全な場所へ避難することが、雷から身を守るために有効です。

・雷に遭遇した場合は安全な空間へ避難

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難して下さい。

鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的
安全な空間です。また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。

・安全な空間に避難できない場合の対応

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げ、4m以上離れた範囲（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

（雷から身を守るには — 安全対策 Q&A — : 日本大気電気学会 から引用）

(以下、日本連盟ホームページから抜粋)

夏季の諸活動に向けて

日本連盟コミッショナーより夏季の諸活動に向けての呼びかけが全国の都道府県連盟を通じて発信されました。

全都道府県連盟宛・日本連盟コミッショナー発信文書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本連盟の諸事業、各種プログラムにご理解、ご協力をいただき厚く お礼申し上げます。

さて、貴連盟及び所属の各隊・各団・各地区においては、夏休みに向けて夏季の諸活動の準備が進められていることと思います。

つきましては、スカウト活動における安全等について、下記のとおり留意事項をご通知申し上げますので、貴連盟指導者各位に周知下さるようお願い申し上げます。

また、今後ともあらゆる会合などの機会をとらえて、繰り返し安全意識の喚起 と各部門の安全態勢を強化され、事故防止に対する万全の措置を講じられるよう、併せてスカウト、指導者一人ひとりが個人としても健康管理を含めて安全等について、自分で責任をもつ心構えの醸成にご協力いただくようお願いいたします。

敬具

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
日本連盟コミッショナー 膳 師 功

1. 活動時における安全対策について

スカウト活動時における安全については、野外プログラム、特に夏季活動において次の項目について、隊指導者各位に徹底していただくようお願いいたします。

- (1) 水辺や海での活動が増える時期です。水のプログラムを実施する際には、十分な安全対策をお願いいたします。
- (2) 「ナイフ等の刃物」の携行や使用の機会が平常より多くなる夏季のスカウト活動にあたっては勿論のこと、日常生活において使用されるカッターナイフ等の取り扱いを含む危険予知教育などの安全対策をお願いいたします。平成22年度のそなえよつねに保険の事故では、切創事故が63件（15.1%）起きています。刃物の正しい扱い方について、安全管理および実技を伴う事前訓練の徹底をお願いします。当ホームページに「15NJにおけるナタによるケガの予防に関する調査」を掲載していますので参考にして下さい。
- (3) 夏季においては、O157などの食中毒の発生が予測されます。その予防には十分な対策を講じられるよう、指導者各位に注意を喚起するようお願いいたします。
※日本連盟発行：野外活動における応急手当て『救急法』の「食中毒」参照（159～178頁）
- (4) 熱中症（熱射病、日射病ほか）の多く発生する時期です。スカウトの体調管理を含めた水分補給などの対策をお願いいたします。
※日本連盟発行：野外活動における応急手当て『救急法』の「熱中症」参照（57～68頁）

- (5) サイクリング中の事故、或いは自転車による集合場所への往復途上の交通事故等も考えられます。最近では各地で通学通園途上の児童を巻き込んだ痛ましい事故も発生しています。自転車の正しい乗り方を含め、交通安全への配慮をお願いいたします。
- (6) 指導者は、日本連盟が制定した「チャイルドプロテクション」の重要性をご理解いただき、日常活動の中での取り組みへの意識を高めて下さい。
- (7) 平成23年3月11日の東日本大震災に関連して発生した福島第一原子力発電所の事故の影響による野外活動への対応については、平成24年2月24日発信「野外活動における放射能対応について」をご参照ください。

2. 指導者の心構えについて

(1) 飲酒・喫煙

スカウト活動中の飲酒・喫煙については、指導者である立場、スカウトと接する状況を踏まえ、成人として配慮ある対応、行動をとっていただくようお願いいたします。

(2) 安全対策

平成17年度より運用していた傷害共済制度、及び平成22年度より運用しています「そなえよつねに保険」においては、事故発生件数に占める指導者の割合が常に20%以上と非常に高い発生率となっておりますことから、スカウトの安全指導に加え指導者自らも事故を起こさない様、引き続き自己管理を徹底するよう指導・助言をお願いいたします。

安全について留意すべき事項

- 1.スカウトの年齢、知識、技能、体力に適合した、余裕のある計画をもってプログラムの実施にあたり、必ず、安全管理者を置いて、活動中における安全に関して常に十分な配慮をすること。特に、水のプログラム（川遊び、水泳等）を実施する際には、実施場所の事前及び直前の調査、十分な指導・監視及び水難救助の態勢を整えること。この態勢が整わない時は、水のプログラム（川遊び、水泳等）を実施しないこと。
- 2.室内、野外を問わず、スカウト活動における安全管理の原則を忠実に守ること。また、実施にあたり計画書を作成し、安全に関する各レベルで指導者の担当を明確にするるとともに、相互に連携を密にすること。併せて、保険の加入について、今一度確認をしておくこと。
- 3.野外活動の場所・気象条件等の環境の事前調査、及び用具・資材等安全確認と万全の準備、並びにスカウトや指導者に対して安全に関する必要な知識や技能の事前研修や準備訓練を確実に行うこと。また、これらの実施記録は必ず残すこと。
- 4.指導者は、行事やプログラム活動中は、自己の健康管理を責任もって行い、スカウトの指導や対応にあたって判断に誤りがないようにすること。時に、プログラムの実施にあたっては、状況に応じてその活動を中止する勇気と決断を下す責任があることを肝に銘じること。
- 5.指導者・スカウトともに、厳に「慣れ」を戒めること。これまで事故に至らなかったが、幸いにして、ことなきを得たことも多いと思われる。このことが、これからも事故がないとの絶対的な保証にはならないことを銘記すること。
- 6.平成23年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故の発生で、周辺環境から通常より高い濃度の放射能性物質が検出されています。屋外での活動は、各自治体及び文部科学省の関連情報を十分に把握・考慮し、活動内容を検討すること。
- 7.以下のような資料を参考にして、安全管理態勢を確立すること。
 - (1)「ボーイスカウト安全入門」、「救急法」、「コミッショナーハンドブック」、「団の運営

と団委員会（第8章：スカウト活動と保険）」

(2)日本ジャンボリー・ベンチャースカウト大会等の安全管理ハンドブック

(3)指導者訓練コースにおける安全管理ハンドブック

(4)スカウティング誌（発行年/月号、タイトル） H11/6 事故に学ぶ

H17/5 夏の野外で食べる！食品衛生の再確認

H22/5 今、改めて薪を燃やす

H23/5 傷害共済事故分析結果にみる傷病の傾向

H23/7 15NJ ナタの事故に関するアンケート結果(概要)

H23/9 減少しない指導者の事故

H23/11 指導者自身の安全の確保を

H24/1 冬季の事故

H24/3 事故ゼロの目標に向けて

H24/5 そなえよつねに保険事故データの分析

H24/7 保険申請に見る夏季活動中の事故事例

(5)「新・野外活動の安全 Q&A」大阪連盟発行図書

(6)「野外を中心としたスカウト活動における応急手当」奈良県連盟発行図書